

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）

授業科目名：日本近代文学概説

担当教員：国語教育講座、青木亮人

## 「日本近代文学概説」の授業評価

### 1. 授業の基本情報

日本近代文学概説は教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）で、中等国語コース2回生は必修科目、また小学校サブコース及び特別支援教育教員養成課程の学生が小学校及び中学・高等学校国語教員免許取得のために受講する選択科目である。令和5年度は約44名が受講した。

主に二年次対象の前期開講課目である点、また複数のコースの受講生という点を考慮すると、受講生は近代文学に関する予備知識をほぼ持たないと仮定し、内容は近代文学史の入門編という位置付けでまとめた。

授業展開としては時代順に作家や作品を紹介し、また各回ごとにテーマを設けた。加えて、昨年度における同科目における成果と課題を踏まえた今年度の取組みについて検討を行うため、具体的な展開は下記の通りとした。

第1回：全体のガイダンス

第2回：学校教育以外の「文学」のあり方を学ぶ一着物の描写、建物の描写の違いについて一

第3回：知識がなくとも「気付かなければいけない」ことについて、例えば現代口語短歌など

第4回：夏目漱石「坊っちゃん」と落語を通じて近代文学の本質を考える一誤解と錯綜の日常について一

第5回：文学における「キャラクター」を考える

第6回：芥川龍之介「秋」を通じて近代文学の特徴を体感する

第7回：太宰治「女生徒」を通じて「日常」を考える

第8回：「日常」とは何かを新海誠のアニメ映画とともに考察する

第9回：「日常」とは何かをアニメ映画『この世界の片隅に』とともに考察する

第10回：文学やアニメ、漫画はいかに

「青空」を描いたかを分析し、「作品」のあり方を考察する

第11回：歌謡曲やポップスの歌誌から「季節感」と人間模様を考察する

第12回：文学や他ジャンルの作品の考察を小学校国語教材の分析や授業実践にいかにか活かすか

第13回：俳句や短歌の余白を読み取り、自身の偏りに気付くためのグループワーク

第14回：文学作品の「分からないこと」をいかに受け入れ、国語に取り入れるか

第15回：まとめと振り返り、最終試験

従来からの同科目における成果と課題を踏まえ、今年度の取組みについて検討を行うため、上記の各回を行う際、下記の点に留意した。

・教員志望者が多いため、将来、国語を学校教育で教授する際に有益な知見や発想、留意すべきことを説明の際に加える

・同時に、近現代文学に関する詳細を知らない受講生が多いため、専門的な内容に関してはその背景や文脈等を解説する

・専門的な知見を要せずとも理解しやすい短詩形韻文を入口とすることで、近現代文学の要点を実感させる

・写真、映画、音楽等の他ジャンルのメディアも多用することで、近現代文学に通底する近現代芸術全般の発想や認識を実感させる

・上記の点を融合させながら授業を行う際、例年グループワークを多用してきた。ただ、受講生からは、教育学部は全般的にグループワークが多いが、実のある議論が少ないように感じるという感想があったため、今年度はグループワーク時に効果的な議論が可能になるように教員側から複数の指示や展開に留意した。

加えて、授業中のやりとりやコメント等からは著名な文学品の名は知っていても読んでいない受講生が多々見受けられたため、授業内で扱う作品を授業時間外で読むよう指示した。

なお、成績評価は各回の発表・質疑応答・出席、最終試験等により判断した。

## 2. 授業評価・授業研究の内容

シラバスに記載したのは下記の通りである。

### 【授業目的】

日本近代文学の幅広い特徴を知ること、国語教育の現場で役立つ「文学」概念を培うとともに、それに留まらない「文学」の魅力を多方面から学ぶ。

### 【到達目標】

①日本近代文学の流れや特徴、その目指す方向性を把握することで、「文学＝国語」の理解を深めることができる。

②日本近代文学史について具体的なイメージを持ち、説明することができる。

上記の目的・目標を、先に述べた「授業概要」での授業展開の中で実感してもらうことを目指した。

受講生には各回で授業内容に関するコメントに加えて改善案等の意見があれば提出してもらい、またアンケートを行い、記述回答として授業全体の感想を募ったところ、下記の感想が寄せられたので、列挙する。

・自分がまだ出会ったことのない考え方を知ることができ、非常に有意義な授業だった。

・授業が全体的に興味深い内容で構成されていた。また、文学を読む際の新たな視点が自分の中で増えたと思う。

・グループワークがかなり行われる授業で楽しかった。国語の教員を目指している人たちが集まっていることもあって、作品に対して深い読みができて面白かった。

・話し合い活動が多く積極的に参加することのできる授業であったと思う。今までになかった気づきをたくさん得ることができた。とてもおもしろい授業であったなと思う。

・普段考えないようなことについて、グループワーク等を通じて触れることができ、非常に興味深かった。

・先生の話が毎回面白く、また考えさせられる内容も多くあり、楽しく授業を受けることができました。

・何気なく読んでいた文章を注意深く読み、意見交換をすることで知見が深められたと思います。楽しかったです。

・様々な近代文学に触れ、様々な捉え方や読み取り方をグループワークを通して、知ることが出来、近代文学についてより興味を持つことが出来たと思う。

・現代的視点で文学をより深く楽しむための方法を経験的に知ることができたと感じる。また文学的作品とそれを読んだ自分の読みについて客観的に振り返るという経験をすることができた。グループワークが多く毎週意欲的に取り組めるよう工夫された内容だったと感じる。

・グループワークを行う機会が多く、自分以外の色々な人の意見を聞くことができてよかった。短歌等の話し合いはとても楽しかった。

・毎回新しい発見に出逢えてものすごく楽しかったです！！身近な音楽や映画を取り上げてくれたことも、親しみやすくて授業が聞きやすかったです！

・詩や小説メインでの授業で、どう詩を捉えるのか、どこが日常を表しているのかということを考え、話し合いが多かったため自分以外の意見も聞け参考になった。

・文学作品や短歌などの読み方に関する見方や考え方が一新されたように感じる。映像や様々な作品を提示してくれたため、興味が湧き、色々と感じるものもあったため、面白くて深い授業という印象が出来上がった。

・日本の文学に対して新たな見解や読み解き方を学ぶことが出来た。文章の見方だけでなく日常やものの見方も変化した部分があり非常に面白かった。今後、より学びを深めていきたい。

・詩や小説を読んだ話し合いにより、自分だけの視点から捉えるのではなく、他者がどのように捉えているかを知ることが自分の考えをふかめることができました。ありがとうございました。

・とても興味深い授業が多くて、受講していて楽しかったです。物事の見方が変わったなと思います。

・動画や短歌など様々なメディアを用いて授業を展開して下さったため、非常に面白く、意欲的に学びに取り組むことができた。今まで自分の中にあった概念が覆るような学びができ、非常に勉強になった。

・自分の知らない文学作品や世界を知るきっかけになった。新しいものを知るとは面白く、自分にとって良い刺激になった。

・作品を様々な視点からとらえるという、今までの自分があまりしてこなかった視点を持つことができた。

・授業を通して、日本の文学に触れてみたいと感じることができた。夏休みを利用して、読書の時間を設けたい。

・同じ作品であっても個人によって感じ方も考え方も全く異なるということが改めて分かった。作品を読むということは一方向的な視点から読むのではなく様々な視点から読み、自分なりに昇華することだと感じ、とても面白かった。

・多様な視点から日本文学の面白さに触れることができた。文学と聞くと一見難しそうに感じるが、この授業では詩や映画、アニメ、歌の歌詞などといった様々なジャンルが取り上げられていたため、自分にとって身近に考えることができた。グループワークを通じて多様な人の意見を聞いて新たな発見をしたりした。

・様々な種類の文学作品に触れられてよかった。実際に中学校や高校の教材として扱わないようなジャンルでも学べることはあることを知ることができた。国語としての読む力が身に付けられたと感じる。

・様々な文学作品（主に俳句や短歌、詩、小説）を通して、これまで自身が培ってきた作品の読みに対する見方・考え方が大きく変わった。特に、日本人独特の読みの感覚は、授業で何かしらの形として子どもに味わってもらえたらと思う。

・近代文学に触れ、その面白さを理解できた。最近はあまり本を読む時間がとれておらず、そうした面でも良い授業だった。

・この授業を通して、様々な短歌や文学作品に触れることができよかった。話を聞いたりグループワークをしたりして、

文学を感じたり捉えたりする意識を学ぶことができた。

・文学作品だけでなく俳句や漫画、アニメから日本の文学について考えられて面白かった。スラックが使いやすくて良かった。

・この授業自体とても楽しく、毎回積極的に取り組むことができたと思う。ありがとうございました。

・授業ではあるけれど、受け手によって学びの内容・質が他の授業より大きく変わってくるのではないかと思った。

・講義形式の授業だけでなく、グループワークを取り入れてくれていた点が良かった。他の人と意見交換をする機会があったため、より短歌や俳句についての考えが深まったと思う。

・今までにはない授業内容で、近代文学の様々な読み方や考え方について考えることができ、文学への距離が近づいたように感じます。短歌や曲の歌詞について考えることがあまりなく、言葉に結構無関心に生活していたことを実感しました。作品に対して感想では止まらない視点を学習できて、今後授業や作品を読むときの姿勢を見つけられたように思います。

### 3. 課題

昨年度のアンケートを踏まえて今年度の授業を展開した結果、上記のような感想が寄せられたことに加え、教員側から見ても授業内容及びグループワークで改善できたと思われる点は多数見受けられた。ただ、教員側から見るとグループワークに関しては温度差が感じられた。巡視時に確認できた範囲では、一般的な意見に終始する受講生や飛躍した持論にこだわる受講生、あるいは鋭い解釈を見せるが、他者への配慮に欠ける発言が多い受講生等が散見された。個人の資質や能力に差があるのは当然だが、それを前提としながら全グループを活性化させるには教員側のAL授業展開のさらなる取り組み方や仕掛けが必要と感じた。アンケート及び授業中の実感、また授業後の受講生からの意見等を参考にしながら、来年度以降の授業内容や展開に反映していきたい。